

## ものづくりの歴史に見る日本の底力

武光 誠 著

オックスフォード大学と野村総研との研究で「10～20年後に、日本の労働力人口の49%がAI（人工知能）やロボットなどで代替可能」になるとの報告書が話題になり、「ものづくり」に携わる人たちは、少なからず不安を抱いたことと思う。しかし、本書を読めば、きっとそのような不安は解消できるだろう。

本書は、日本の歴史を旧石器時代から現在（平成時代）までを17の時代区分に分け、歴史の大きな流れを、技術とその背景にある科学とを絡めながら書かれている。

### 第1章 日本文化は一つの壺から始まった

縄文土器は、世界最古の土器の一つであり、土器の出現は、人間の生活を全面的に変えた。土器の製作は、化学的変化を用いた手工業であり、縄文人は、土から土器という新しい製品を作り出した。縄文人は、誰にも教わずに偶然、土器づくりを身につけたと考えられている。縄文時代には、文字がなかったが、心の通じ合った人から人へ技術は伝わったと考えている。

### 第2章 鉄器の普及が国を作った

弥生時代開始時に、水稲耕作とともに、機織り技術や磨製石器の製法などの先進文化が朝鮮半島から輸入された。その後、朝鮮半島との交易で、鉄器も伝えられ木器製作の工具として使われた。この時代に日本人は、それまで知らなかった技術や高度な航海技術を使いこなすようになった。

### 第3章 土地開発と武士の誕生

日本の農業は、奈良時代から平安時代にいたる長期間をかけて徐々に発展していった。中央の貴族が先進技術を独占せずに地方へ広めたことにより、地方の農村が急速に豊かになった。

そして、農業技術の進展が、武士という新たな階層を作り出した。日本の産業は、武士の指導のもとに鎌倉時代に大きく発展した。

### 第4章 航海技術の発展が戦国動乱を起こす

「ばはん船」と「倭寇」と呼ばれる海商が日本の社会に大きな影響を与え、日本の姿を全く異なったものにした。

### 第5章 鉄砲伝来が天下統一を実現させた

鉄砲という武器によって戦国時代が終わり、日本は領土を海外に拡大しようと夢みた。

### 第6章 江戸時代の手工業と洋学

江戸幕府成立のあと、日本の農業も商工業も急速に発展し、日本全体が見違えるほど豊かになった。その後、日本を発展させるために、西洋の学問を取り入れるべきだと唱える者が現われ、急速に近代化した。

### 第7章 幕末の欧米文化の衝撃

ペリー来航後、15年もしないうちに日本は、大砲、軍艦を中心とした軍需工業の面で近代化を成し遂げ、新たな時代の担い手である洋学者を育てた。

### 第8章 科学の時代に漕ぎ出した日本

明治政府は、教育の充実にも力を入れ、費用を惜しまず人材投資したことが、多くの優秀な科学者を生み出すことになった。

### 第9章 iPS細胞を生み出した日本

現代のように先の見えない時代に最も必要なことは、「ものづくりの日本」を見直すことである。長い歴史を通じて生活に役立つ技術を重んじ続けてきた日本人は、十分な底力を持っていることを強く述べている。

### 最終章 科学技術の発展と歴史

日本の「ものづくり」は、「何かを教わりたい」と考える者に、気前よく自分の知識を伝えることである。このような小さな好意が、日本の文化や技術を発展させてきたのである。

（小学館101新書、220頁、720円＋税）（長田利彦）